2020年8月2日（日）礼拝説教要約

説教「共に平和に生きる世界」

（創世記1章24～31節）

今日は8月の第一主日、平和聖日です。今日は世界の平和について考え、祈りたいと思いますが、今年は、世界の平和について考える上で人間の平和だけを語るのは不十分ではないかと感じています。

それは今年の1月から新型コロナウイルスが世界中に広がり、多くの人が苦しんでいると言う状況があり、また、地球温暖化の影響が今年の大雨に現れていると強く感じるからです。

今、コロナの問題と地球温暖化は、私達に自然と人類の関わり、自然と人類の共存・共生・平和を問いかけており、私たち人類は、その問いに応えなければなりません。

まず、コロナの問題ですが、ウイルスの歴史は非常に古く、その誕生は30億年前に遡ります。ウイルスは、遺伝子を含む核酸をたんぱく質で包む微小な粒子で、人間や動物を宿主として増えていきます。

人間の体には約1000兆個いると言われていますが、感染症をもたらすものは1％ほどで、ほとんどのウイルスは人間にとって有益で必要なものです。

そのウイルスが天然痘やペストなどの感染症をもたらす場合がありますが、それは人口が集中した時、逆に、未開地などに人類が広がって行った時だと言われています。

今回の新型コロナの広がりも、世界のグローバル化と都市化が大きな要因と言えます。つまり、この新型コロナは、私たちの文明の在り方、人類と自然の関係を問いかけているのです。

他方、地球温暖化は、家庭や工場、自動車や火力発電所などが排出する二酸化炭素などが増えたために起こっています。人類が莫大な利益と快適な生活を求め過ぎたために起こっているのです。

そう考えると新型コロナも地球温暖化も人間の生き方と生活の在り方を問うており、今、人類はどのようにして自然と共存・共生ができるか、いかにして平和な地球を守るかが問われていると言えます。

では、聖書はどのようなメッセージを送っているのでしょうか。今日取りあげた創世記1章24～31節から聴いて参りましょう。

ここは、天地創造物語の6日目の記事です。天地創造の6日目に地上の生き物と人間が創造されますが、その際、神様は人に「地を従わせよ、すべての生き物を支配せよ」と命じます。知識人の中に、ここにキリスト教の人間中心主義があり、これが今日の自然破壊の原因であるという人がいますが、それは正しいのでしょうか。

それに答えるために、今日は、聖書から3つのメッセージをお伝えします。

第一は、この「支配」は、神様が人類とすべての被造物のためにご自身を捨てるほど相手を祝福されている、その姿勢で最大限の配慮をすることを意味しています。人間が勝手に自然を破壊したり命を奪うような支配ではないのです。

第二は、創世記2章には神様が「土を耕す」ために人を造ったことが書かれていることです。「耕す」とは「仕える」ことです。神様は人間を大地・自然に仕えるものとして創造されたのです。人は大地・自然に仕える存在なのです。

第三は、聖書には人間の悪と罪が自然を破壊することが書かれていると言うことで

す。ノアの洪水も人間の悪によって引き起こされました。また、預言書には人間の罪と悪が自然を苦しめ、破壊することが書かれています。つまり、聖書は自然に対する人間の責任を厳しく問うているのです。

これが聖書が伝えているメッセージです。聖書は、自然に対する、また、すべての生き物に対する人間の責任と使命を明確に記しているのです。

2020年8月2日（日）礼拝説教抄（説教本文から）

「エレミヤ書にはこうあります。『いつまでこの大地は嘆き、野の草は枯れ続けるのか。そこに住む者たちの悪のゆえに、獣と鳥は消え失せた』と。

そのように預言書には、人間の悪の結果、自然は荒廃し、滅びていくことが書かれています。これは、現代を預言するかのようです。人間の罪と悪によって、自然は荒廃し、貴重な生き物たちは滅びていく。温暖化によって気候は変動し、自然が荒廃し、住みづらくなっています。このことが既に預言されているのです。

つまり、聖書において、自然の荒廃、破滅の原因は、人間にあることを書いている。これは、裏返せば、この自然に対し、すべての生き物に対して、人間は、大きな責任を負っていると言うことです。この自然に対して、そこに生きる生命に対して、そして、地球に対し、宇宙に対する責任を、人間は負っている。そのことを聖書は、はっきりと記しているのです。

今日は、平和聖日ということで、改めてこの世界の平和について考えています。聖書に使われている『平和』と言う言葉は、ヘブライ語のシャロームと言う言葉が基礎・土台

となっていますが、シャロームと言う言葉は、心の平和・平安ということだけでなく、肉体的に健やかである、健康であることも意味し、また、社会的にはすべての人が満ち足りて、幸福に暮らしている状態を意味しています。

天地創造の物語にあるように、この世界は、神様によって創造され、神様の実に豊かな恵みと祝福に満ちていました。今日の聖書の箇所の最後にある創世記の1章31節には、こう書かれています。

『神は、お造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった』と。

この世界のすべてが素晴らしい、この世界は、そして、そこに生きている者は、すべて美しい。極めて良い、と神ご自身がこの世界を最大限に絶賛しておられるのです。

その神様の祝福に満たされている美しい世界をシャロームと言ったのです。

神様は、その祝福に満ちた世界を守り続けるように、人間に命じられ、委ねられました。この世界、この自然、そこに生きる生き物すべてが、神様の恵みと祝福に満たされて生きていけるように、最大限の配慮をしていくのが人間の役割です。この世界、この自然、そこに生きる生き物たちが、幸福に幸せに喜びに満ち溢れて生きていけるように仕えていくのが、人間の役割です。

そのような神から与えられた役割を果たしながら、この世界、この地球、この自然を守っていくこと、自然と人間の調和・平和を築いていくことが、人間の使命であり、責任です。

私たちはそのことを、今日の平和聖日の日に、しっかりと心に刻んで、この世界をさら

に祝福溢れる世界にしていきたい、神の平和が実現するように生きて参りたい、そう思うのです。」